

# とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2011.2.February Vol.16-1

## 心豊かに暮らせる 地域づくりをめざして

皆様に支えられてこの4年間、議会で皆さんの声を代弁し、しっかりと県の政策や取り組み、事業の実施状況を見守ってきました。皆さんが安心して暮らすことができ、ゆとりのある生活が送れる環境を整備していくことが何よりも大事です。

皆さんが、日々笑顔で過ごせる環境を作っていくことが、地

域の支え合いを育み、地域の活力を生み、ひいては島根の元気となっていくと思います。その思いを実現するために全力で取り組んできました。今後も、皆さん一人ひとりが大切にされ、皆さんが主役となる政治を実現するために全力でがんばります。4年間の活動で実現したことで、前進したことについて報告します。



### ♥乳幼児等医療費助成の拡充♥

子育て家庭への支援の一つとして、医療費の負担軽減が求められています。県内市町村で対応はまちまちであるため、住所地によって子どもの医療費の負担割合が違うことの解消や、所得制限の撤廃、負担の軽減を求めました。

昨年(10年)12月から、所得制限の撤廃と、3歳未満児から就

学前児童を対象が拡大され、子どもの医療費の負担上限を通院10000円、入院20000円に改正されました。

※松江市では、すでに小学3年生まで無料としており、さらなる県の対応が必要です。

### ♥情緒がい児短期治療施設の設置♥

いじめや虐待などによって心に傷を負う子どもたちに、心理療法などによって療育支援を行う情緒障がい児短期治療施設の設置を求めました。

昨年(10年)4月に情緒障がい児短期治療施設が開設され、また、9月には分教室も併設され、情緒障がい児の療育支援のための整備が進みました。

### ♥こころカンパニーの拡大♥

男女が共に仕事と生活を両立できる職場環境整備を促進するため、公共事業の入札総合評価加点項目に子育て応援企業(こころカンパニー)の認証を入れることを提案しました。さらには物品・役務への拡大も提案しました。

20年度からの建設工事入札参加資格審査の評価項目に加えられたことで、それまで認定事業所数が26社だったのが、20年度末には98社となり、さらに来年度から物品・役務にも拡大されることから、現在(本年1月時点)では146社に増えています。

### ♥海岸漂着ゴミ対策♥

漂着ゴミが増える中、その処理に苦慮する市町村への支援と、特に海外からの漂着ゴミ対策を国へ要望することを求めました。

県から国への要望活動開始によって、国を通じた韓国での啓発、また、国の海岸漂着物対策モデル事業やグリーンニューディール事業で、市町村でのごみ回収事業の支援が強化されました。

### ♥あらゆる場への女性の参画促進♥

審議会等への女性の参画率は計画目標数値の40%を超えていますが、県の目標設定では除外されている審議会・委員会

等があり、国の調査における他県との比較では低い状況にあるため、女性の参画促進に積極的な取り組みを求めました。

その結果審議会等の女性の参画率が向上しました。

(参考)	単位	%
審議会等委員	28.9	(08年4月1日)
	⇒	30.6 (10.4.1)
		全国 13位
委員会等委員	6.5	(08.4.1)
	⇒	13.0 (10.4.1)
		全国平均 16.7

このほかにも、木造住宅耐震化助成制度の創設やNPO活動支援体制の充実、不登校の子どもたちへの支援の充実、障害者の皆さんの就労支援事業所での工賃向上の取り組み支援、高次脳機能障害者の皆さんへの支援、ALS患者の皆さんの療養環境改善への支援など、地域でがんばる人たちの声が活かされ、皆さんに光があたるよう取り組んできました。

### ♥新年度予算案に盛り込まれる♥

二月定例議会での質問の中で提案した次のことが、23年度予算案に盛り込まれました。

#### 新しい公共支援事業

民間が持つ技術や能力を活かし、その力を借りて協働で公共サービスを実施していくことが、限られた財源、人員の中では必要という観点から、今後、NPO、市民団体をはじめ民間との協働で事業を実施していくことを提案しました。

県では新年度、県民の積極的な「公」への参加による公的サービスの供給に向け、NPO等の自立的な活動を促進・支援する事業として「新しい公共支援事業」を創設します。

#### 公共土木施設の長寿命化対策

道路の補修や管理などは、その安全性の面から必要ではありますが、経費を節減するためにも、その補修や改修、超寿命化を計画的に実施していくことが必要と提言しました。

県では新年度、計画的に実施するための準備に向けて事業を創設し開始します。

# 地域から島根の元気をつくる

### ♥県政報告会

1月23日にホテル白鳥において「角ともこ県政報告会」を開催し、約100名の後援会関係者の皆様に出席いただきました。

最初に、小室寿明衆議院議員より、国政の状況、特に農業政策についてお話をいただきました。

そのあと、「地域から島根の元気をつくる」をテーマに、雲南市木次町湯村の農事組合法



小室寿明衆議院議員が挨拶

人槻之屋ヒーリング代表理事の齋藤文隆さんと、地域の自治組織である槻之屋振興会の副会長の齋藤義明さんをお迎えして、パネルディスカッションを行いました。

槻之屋地区は高齢化率が40%を超える、いわゆる限界集落に近づいている集落です。しかし、住民の皆さんの「地域の農業は地域で守る」という情熱から、集落内の農家で農事組合法人を設立されました。様々な困難に直面しながらも、集落の未来を自分たちの力で切り開いていらつしやうた事例を紹介いただきました。

また、槻之屋振興会は、単なる自治組織の域を超え、NPOの承認を受け、農家レストランの開店や「槻之屋神楽」の伝承、さらに国際ユースキ



槻之屋ヒーリング代表齋藤さんから話を聞く

ャンプの受け入れなど、地域を挙げたボランティア活動に取り組んでおられることなども紹介いただきました。

講師のお二人からは、地域の課題や不安を解決していくためには、まずは、しっかりと地に足をつけて地域を見つめ直し、地域資源を洗い出すこと、過疎化や高齢化の現実を正面から受け止めて、地域住民の知恵と力を結集することが大切であるということをお教わりしました。